資　料

近代日本農業技術の記録史料としての『秋田県種苗交換会史』再読の意義

阿　部　希　望†

１．はじめに

農業生産力を高める手段の１つとして優良種苗の入手があり，これには２つの動機が併存する。１点目は，今あるものよりも優れた品種特性を表す他品種の種子を得ることであり，２点目は，自家採種を連年繰り返すことで起こる品種の退化や品質の劣化を防ぐために，同一品種の種子を外部から得ることである。とりわけ後者の動機は，遺伝学的に品種特性が固定されていない段階，あるいは稲・大豆・小麦等の同一個体の花粉で受粉する自殖性作物の栽培において必要となる要素であり，数年に一度，他の種子と置き換えることで栽培品種の優良性や純粋性を維持することが可能となる。こうした両者の入手動機を充たす「場」として，手作りの作物や種子を持ち寄り，お互いに見せ合い，交換することを目的とした「種苗交換会」がある。

日本における種苗交換会の始まりは近世にまで遡る[1)]。近世初期には大名が中心となって推進したものであったが，中期から農民主体へと変わり，幕末には不二道などの宗教組織が大規模に展開するような例も現れるようになった。そして，幕末維新期になると著名な老農も種苗交換に尽力し，こうした積み重ねの上に，明治前半期には三田育種場を頂点とする官主導の種苗交換会が全国各地で開催され，一時的なブームを呼んだ。しかし，明治20年代前半までは過半数の府県で開催されていたとみられる種苗交換会が，その後，少数の例外を除いて10年の歴史をもたずして消滅している。こうした中で，今もなお，日本で唯一その系譜を継承しているのが，本稿で取り上げる「秋田県種苗交換会」である。

明治11年に創設された秋田県種苗交換会は，農家同士の知識と経験の協議を目的とした「談話会」と「種苗交換会」を統合一体化させたものであり，各地で官主導の種苗交換会が消滅していく最中，同会は明治34年（第24回）に県から農民団体主導の体制へ移行した。その後も，農民団体による農民のための技術と情報の自由な交換の「場」として連綿と継続され，この間，１度も休会することなく，令和元年に142回目の開催を迎えた[2)]。昭和29年（第77回）から現在に至るまで，同会の主催を務める秋田県農業協同組合中央会では，第88回目の開催を記念して，これまでの種苗交換会のあゆみをまとめた『秋田県種苗交換

†立教大学経済学部助教

1）近世における種苗交換会については，岡（1988）３-14頁を参照。

2）現在では種苗交換の実際行動は停止し，新穀感謝農民祭，農業功労者の表彰，農産物審査結果の公表，談話会や交換会関係者の物故者追悼会，褒賞授与式が主体となっている。

会史　明治編』と『秋田県種苗交換会史　大正編・昭和編』を刊行している。刊行後50年以上経った今，改めて読み返してみると，記念誌という形態ゆえに光が当たることもなく，見逃されてきた同書の史料的価値に気づかされる。そこで本稿では，「記念誌」として刊行された２冊の『秋田県種苗交換会史』を取り上げ，同書のもう一つの側面とも言える「史料的価値」について，特に明治・大正期を中心に紹介する。

２．刊行に至るまでの経緯

『秋田県種苗交換会史』は，米寿の節目にあたる第88回秋田県種苗交換会の開催を前に，同会を主催する秋田県農業協同組合中央会（以下，中央会）の当時の会長・長谷山行毅氏によって「種苗交換会八十八年史」の刊行が企図され，その編さんを秋田県立農業講習所所長補佐を務めた泉金雄氏[3]に依頼したことから始まった。泉氏は農業講習所を退職した後，中央会の嘱託職員となり，昭和39年６月より秋田県種苗交換会に関する史料の所在確認調査に着手した。この調査は約４か月の歳月をかけて，県内の個人宅・普及所・農協・役場・県農業試験場等，計126カ所で実施された[4]。この間，中央会では同年７月に「八十八年史編さん委員」を設置し，その後，鹿角・北秋・秋田・由利・仙北・平鹿・雄勝地域における79軒の個人宅および郷土文化保存伝習館や東北農業試験場へ史料調査に出向いている[5]。これら一連の調査の結果，収集された史料情報をまとめたものが**表１**および**表２**である。

『秋田県種苗交換会史　明治編』（**表１**）には，第１回～第４回は「勧業会議日誌」，第６回～第７回は「種苗交換会日誌」，第９回～第10回は「農話連報告」，第11回・第16回～第17回・第19回～第20回・第22回～第23回は「種苗交換会記事」，第24回・第26回～第28回・第32回～第34回は「県農会報」，第29回～第31回は「県農会年報」の原本が使用されている。この時点で，県主催の第１回～第23回の史料は県には全く残されておらず，個人宅からの史料提供に依拠している。尚，第５回，第８回，第12回～第15回，第18回，第21回，第25回の９回分については原本が発見できなかったため，老農・石川理紀之助と佐藤九十郎が大正４年に刊行した『種苗交換会沿革誌』で補足されている。一方，『秋田県種苗交換会史　大正編・昭和編』（**表２**）には，第39回と第56回を除いて全て原本が使用されている。原本の大半は現在の主催者である中央会が所有するものであるが，第35回～第44回と第56回の全11回分については個人宅と試験場からの提供となっている。尚，第44回までは，「種苗交換会報告」が県農会報の特集号として出されていたが，第45回以降から単独の「報告」となった。

こうした県内全域の大掛かりな調査を経て収集された史料群を翻刻したのが『秋田県種苗交換会史』であり，明治編が昭和42年11月に，大正編・昭和編が昭和45年４月に刊行された。明治編は本文432頁，付録（主要会員名簿・年表・県統計による明治年間における本県農業発展の推移）７頁，大正編・昭和編は本文1,012頁，付録（種苗交換会の沿革・談話題一覧表・出品と受賞の推移）18頁，索引（明治編，大正編・昭和編前期，昭和編後期）34頁からなる大著で，いずれも1,000部

3）泉氏は明治35年に秋田市に生まれる。大正12年以降，各地の農業学校の教諭に従事した後，昭和24年から秋田県立農業講習所に赴任し，昭和33年に同所所長補佐として退職した（秋田県農業協同組合中央会（1981）474頁）。

4）秋田県農業協同組合中央会（1967）443-444頁。

5）秋田県農業協同組合中央会（1967）444-445頁。

表１　明治編に収録された史料情報

回　数	史料名	所蔵先（現郡市・大字名）
１～４	勧業会議日誌	森川家（秋田市・新屋町）
5	種苗交換会沿革誌	秋田県農業協同組合中央会
6	種苗交換会日誌	小森家（北秋田郡・上小阿仁）
7	種苗交換会日誌	赤川家（山本郡下・岩川）
8	種苗交換会沿革誌	秋田県農業協同組合中央会
９～10	農話連報告	深井家（由利本荘市・岩谷）
11	種苗交換会記事	茂木家（横手市・増田）
12～15	種苗交換会沿革誌	秋田県農業協同組合中央会
16～17	種苗交換会記事	鎌田家（大仙市・大沢郷）
18	種苗交換会沿革誌	秋田県農業協同組合中央会
19	種苗交換会記事	椎名家（南秋田郡・富津内）
20	種苗交換会記事	鎌田家（大仙市・大沢郷）
21	種苗交換会沿革誌	秋田県農業協同組合中央会
22～23	種苗交換会記事	石川家（大仙市・豊川）
24	県農会報	秋田県農業試験場
25	種苗交換会沿革誌	秋田県農業協同組合中央会
26～28	県農会報	秋田県農業試験場
29	県農会年報	鎌田家（大仙市・大沢郷）
30～31	県農会年報	秋田県農業試験場
32～34	県農会報	伊藤家（にかほ市・金浦）

（出典）秋田県農業協同組合中央会編（1967），８頁より作成

限定の非売品である[6)]。

３．『秋田県種苗交換会史』の史料的価値

『秋田県種苗交換会史』の構成を見ると，各時代とも大きく分けて（１）農業の動向，（２）交換会の展開とその特徴，の２つに区分される。「農業の動向」では，交換会の背景となる秋田県の農業の展開を年代順に述べており，「交換会の展開とその特徴」では，時代ごとに交換会の展開と特徴が「総論」としてまとめられ，次いで「各論」として，その年の交換会の概要，諸規則，役人および会員，開会式および褒賞授与式，出品内容，品評成績，談話会，講演会，追悼会，講演会，各種懇談会，人と業績の順で配されている。

「各論」の中で得られる明治・大正期の量的データを**表３**にまとめた。年によって記載の見られない項目もあるが，おおよその傾向はつかむことができる。このうち，「出品点数」と「授賞者数」については，本文中で品目別，地域別に分かれた集計もあり，さらに

6）100周年を記念して『秋田県種苗交換会史　昭和編二』が，昭和56年に1,500部限定の非売品として刊行されている。

表２　大正編・昭和編に収録された史料情報

回　数	史料名	所蔵先（現郡市・大字名）
35	種苗交換会報告	佐藤家（にかほ市・金浦）
36～37	種苗交換会報告	秋田県農業試験場
38	種苗交換会報告	菊地家（潟上市・飯田川）
39	断片的史料	長谷部家（由利本荘市・亀田）
40～41	種苗交換会報告	伊藤家（にかほ市・金浦）
42	種苗交換会報告	東北農業試験場
43～44	種苗交換会報告	伊藤家（にかほ市・金浦）
45～55	種苗交換会報告	秋田県農業協同組合中央会
56	断片的史料	相馬家（大仙市・南楢岡） 秋田県農業協同組合中央会
57～88	種苗交換会報告	秋田県農業協同組合中央会

（出典）秋田県農業協同組合中央会編（1970），11頁より作成

「授賞者数」のうち１等入賞者については，授賞作物（品種），授賞者名（所在地）が明記されている。また，「会員数」は本文中に会員名と所在地の記載があり，これら会員は談話会の参列者に当たる。このうち，５回以上の会員歴を有する者については「人と業績」に略歴も掲載されており，会員の氏名と「人と業績」を丹念に照合させることで，談話会における発言者の人物像に迫ることもできる。尚，会員については，第１回～第４回までは一般農民の参集は皆無で，勧業会議出席者と勧業関係者（県課吏員・郡吏員）が中心をなしていたが，第８回から県課吏員が除外され，第11回よりほとんどが一般農民となり，第20回以降は一般農民のみとなった。

次に，同書の中で最も紙幅が割かれている「談話会」について見ていきたい。**表４**と**表５**は明治・大正期における談話会の議題をまとめたものである。とりわけ，明治期の議題は各年とも多く，県内に内在していた農林漁業に関する問題を様々な角度から取り上げていたことが分かる。第16回から議題が徐々に整理統合され，第１問は「その年の作柄検討」，第２問は「種苗交換の成果」，第３問以下で「当面の特定課題」と配列され，その後のパターンとなっていく。しかし，大正期になると，談話会の議論は品種から栽培法に変わり，種苗交換会の主体も種苗交換から農産品評会に移行していく中で，第44回から「種苗交換の成果」に関する議題がなくなっていく。では，こうした議題に対して，会員たちはどのような協議を重ねていたのであろうか。ここで，第17回（明治27年）の談話会を例に，「一　本年農作（稲，大豆，麦）ノ景況」の議題に対する会員たちの発言の一部を抜粋してみよう[7]。

＜史料１＞

会頭代理　塩水選の効果はどうか。

野呂　本年全部の田んぼに実施してみたが，効果は甚大であった。

中津山　毛馬内でも塩水選と普通のものとの比較を３年間行った。たしかに有効である。

７）秋田県農業協同組合中央会（1967）241頁。

（中　略）

近藤　奈良専二の書物にあるように塩水選には反対だ。自分は寒水選を行っている。

畠山　その寒水選を知りたい。

近藤　２斗５升のもみをよく洗って，温暖な日に屋外でかわかすものだ。

畠山　塩水選を実験したが，その結果は優秀だと自分は確信している。塩水選をしない苗は蟹苗を生じやすい。高橋のような非凡な人以外は塩水選をするほうが安全と思う。

野呂　浸種は30日もしてはかえって害がある。いたずらに長く浸けるよりも，よく種を選んで薄播きする方が得策である。

中嶋　種子を精選するには，塩水選におよぶものはないと思う。

当時，全国に普及していた「寒水選（浸）」[8]と「塩水選」[9]の技術の狭間で揺れ動く農民の試行錯誤の一端を垣間見ることができよう。総じて『秋田県種苗交換会史』には，農民の体験に基づく農業技術や各地の農業情報，農政問題に関する農民の発言内容が克明に復原されているのが最大の特徴と言える。そこには，当時の農民たちが自発的に技術の改善に取り組む様子，新たな政策展開と彼らの生産活動とのねじれ，理論と実践の間でせめぎ合う彼らの足跡が刻まれているのである。こうした意味において，『秋田県種苗交換会史』は単なる記念誌の範疇を超えて，史料が得難い明治前期から昭和期における農民思想や農業技術の様相を活写する貴重な記録となっているのである。

４．むすびにかえて

近代の秋田県農業については，勧業機構・老農・農業技術・地主制・農会制度等ほぼ全面にわたって精力的な研究がある[10]。しかし，これら一連の研究においても「秋田県種苗交換会」を対象とした研究は，管見の限り見当たらない。そこで最後に，近代日本農業技術の記録史料としての『秋田県種苗交換会史』を再読することの意義を述べ，むすびにかえたい。

第１点目は，これまで等閑視されてきた種苗交換会の歴史的評価である。明治前期のいわゆる老農時代，老農の活躍する舞台となったのが農談会であることはよく知られている。しかし，この時期には，農談会とならんで種苗交換会が全国各地で活発に開催されていた点も見逃せない。農業生産に与えた影響という観点からすれば，農談会とともに種苗交換会の果たした役割についても正当な評価がなされてしかるべきであろう。さらに言えば，秋田県では大正10年に我が国の人工交配品種のさきがけとなった「陸羽132号」[11]が国立農事試験場陸羽支場で育成されている点も興味深い。交配試験を行う前段階として，育種素材となる多様な品種を収集するとともに，それらを純系分離技術によって「純系品種」に育成する作業が必要となる[12]。大正５年から

8）老農林遠里が普及させた福岡農法の１つ。精選した籾を冷水に浸した後，土中に埋めて芽出させる。

9）農学者横井時敬が明治15年に主張した籾の選種法。種子を一定の比重の食塩水に入れ，浮いたものを取り除き，沈んだものを種子として採用することで，比重の大きな充実した種子を選び出すもの。

10）田口（1984），勝部（2002），穐本（2015）等がある。

11）「陸羽132号」は「陸羽20号」と「亀の尾４号」を交配してつくられた。そして，「陸羽132号」と「森多早生」の交配から，昭和６年に「農林１号」が育成され，後に「コシヒカリ」へと引き継がれていく。

12）雑種性の品種から純系を分離して取り出す技

国の助成により全国各府県で稲の純系分離に着手しているが，秋田県では明治37年から陸羽支場で，大正３年から県農事試験場で交配試験が開始されている。つまり，この時点で既に多くの品種が収集され，純系品種の育成が進み，交配試験を開始する素地が整っていたのである。これは種苗交換会によって，公的な品種改良事業の促進が図られた可能性を示唆するものであり，種苗交換会の歴史的評価に関しては，生産技術面だけではなく，育種技術面の視角も組み入れて総合的に論じる必要があるだろう。

第２点目は，農民による技術受容の過程に改めて目を向けることである。秋田県種苗交換会は県内全域にわたる老農層，農民層，行政を含み込みながら展開したが，同会が継続されてきた特徴として，上からのお仕着せではなく，農民同士による「自由な交換」という観点が貫かれていたことがある。行政がいくら主導的な役割を果たそうが，現実的に技術を取り入れていくのは在地の農民であり，彼らの行動如何で技術受容の成否が決定される。これに加えて，秋田県という地域性もまた重要である。明治・大正期までの秋田県の米10a当たりの収量は全国で42番目の位置にあったが，その後，昭和戦前期には20番台になる年も増え，昭和33年以降上位に達する。農業技術の発展過程については，高い技術水準を有する先進地域が注目されがちであるが，後進地域における技術のキャッチアップの過程に着目することは，ひいては近代日本の在来農業技術と近代農業技術の関係やその変化のプロセスを再考することにも繋がる課題であり[13]，且つその知見は，現代における発展途上国への農業技術移転の方向性を示す参考資料にもなり得る課題である[14]。こうして考えると，近代日本農業技術の記録史料として『秋田県種苗交換会史』を再読する意義は，決して小さくはないのである。

引用文献

秋田県農業協同組合中央会編（1967）『秋田県種苗交換会史　明治編』
秋田県農業協同組合中央会編（1970）『秋田県種苗交換会史　大正編　昭和編』
秋田県農業協同組合中央会編（1981）『秋田県種苗交換会史　昭和編二』
穐本洋哉（2015）『日本農業近代化の研究―近代稲作農業の発展論理』藤原書店
内田和義（1991）『老農の富国論―林遠里の思想と実践―』農山漁村文化協会
岡光夫（1988）『日本農業技術史：近世から近代へ』ミネルヴァ書房
勝部眞人（2002）『明治農政と技術革新』吉川弘文館
鈴木俊（1992）「発展途上国に対する農業技術移転に関する研究―普及制度創設直後のラオス人民民主共和国における農業技術移転の実態と課題―」『熱帯農業』36（２），117-126頁
田口勝一郎（1984）『近代秋田県農業史の研究（田口勝一郎著作集Ⅰ）』みしま書房
西村卓（1997）『「老農時代」の技術と思想―近代日本農事改良史研究』ミネルヴァ書房

術のこと。

13）例えば，内田（1991），西村（1997），勝部（2002），穐本（2015）などとの関連において。

14）鈴木（1992）は，発展途上国への農業技術移転を行う際に生じる問題の解決策として，日本の普及制度創設当初に実施された種苗交換会の開催等の有効性を指摘している。

表３　『秋田県種苗交換会史』に記録されている明治・大正期における量的データ

開催年度	回　数	出品点数	出品人数	授賞者数	交換希望者数	会員数
明治11	第１回	189	－	－	564	59
明治12	第２回	739	－	有	4,083	42
明治13	第３回	969	－	有	3,375	44
明治14	第４回	1,061	－	36	4,566	45
明治15	第５回	1,752	－	31	2,770	65
明治16	第６回	1,827	－	45	9,498	65
明治17	第７回	1,610	232	49	－	56
明治18	第８回	1,992	－	46	－	73
明治19	第９回	806	－	53	6,475	72
明治20	第10回	2,694	－	57	－	75
明治21	第11回	1,273	－	58	－	81
明治22	第12回	－	－	－	－	81
明治23	第13回	2,027	－	37	－	100
明治24	第14回	1,806	－	55	－	95
明治25	第15回	2,172	－	36	－	75
明治26	第16回	2,646	－	37	－	85
明治27	第17回	2,385	－	95	－	71
明治28	第18回	2,371	－	70	－	71
明治29	第19回	1,620	－	110	－	79
明治30	第20回	2,173	－	110	－	66
明治31	第21回	2,025	－	110	－	76
明治32	第22回	2,197	－	114	－	66
明治33	第23回	1,535	－	110	－	64
明治34	第24回	1,338	－	130	－	50
明治35	第25回	583	－	63	－	49
明治36	第26回	1,151	－	149	－	58
明治37	第27回	1,365	－	195	－	81
明治38	第28回	1,029	－	174	－	62
明治39	第29回	1,115	－	229	－	65
明治40	第30回	1,051	－	301	－	64
明治41	第31回	1,650	1,353	407	－	59
明治42	第32回	1,931	1,606	－	－	61
明治43	第33回	3,180	－	474	－	186

開催年度	回　数	出品点数	出品人数	授賞者数	交換希望者数	会員数
明治44	第34回	3,456	2,758	481	−	147
大正元	第35回	5,089	4,368	617	361	201
大正２	第36回	4,408	3,790	634	356	123
大正３	第37回	4,988	−	686	487	140
大正４	第38回	5,636	5,017	508	915	197
大正５	第39回	5,448	5,125	645	−	158
大正６	第40回	3,948	3,957	623	825	128
大正７	第41回	3,235	−	448	524	137
大正８	第42回	5,515	−	642	869	269
大正９	第43回	4,435	−	529	465	202
大正10	第44回	4,311	−	623	383	248
大正11	第45回	3,841	−	573	823	198
大正12	第46回	4,147	3,763	619	−	246
大正13	第47回	4,850	4,369	728	−	260
大正14	第48回	4,779	4,093	568	−	240

（出典）秋田県農業協同組合中央会（1967）および秋田県農業協同組合中央会（1970）の各年「各論」より作成
（注）明治編の付録に第１回～第34回，大正編・昭和編の付録に第66回～第88回までの量的データを集計した表が掲載されている。しかし，本文で示されている数値と異なる箇所があったため，本表は「各論」から得られた数値のみを示した。

表 4　明治期における談話会の議題

回　数	議　題
第 1 回	一　総テ勧業上ハ理論ニ僻馳シ干渉シ及ブハ本係ノ主意ニ非ラズ。勧業上尤モ平易ニ実益ノ行ハレ易キヨリ，歩々高遠ニ達スルヲ以テ主眼トスベシ / 二　固有ノ動植物産ヲ精良ト繁殖トニ至ラシムルコト / 三　新利アル動植物ヲ各地ニ試ミシムルハ，固有物産ノ精良繁殖ニ次デ怠ルベカラズ。雖然其経験確実ナルヲ認メテ後ニチ非ザレバ，猥リニ着手ヲナサザルヲ好トス 但寒暖気候ニ適否アレバ，当分ノ内其不適ノ品ヲ強テ試験スベキニ，労力ト資金ヲ消費セザルヲ好トス。之レ百事ノ挙ラザルハ一事ノ挙ルニ如カザレバナリ / 四　植物ノ種子ヲ撰ムノ最モ緊要ナルハ論ヲ俟タザレバ，籾種，麦種，麻，七嶋，煙草，其他ノ蔬菜類ニ至ルマデ種子ノ良種ヲ選ミ且ツ交換ノ道ヲ設クルコト / 五　駆虫ハ其虫ノ性質ニ応ジ，必ズ駆虫スベキ時機ヲ失セズ人民ヲ誘導シテ奏効セシメ，且其駆虫ノ実験ノ次第ハ之レヲ第二課ヘ報告スベシ / 六　耕耘ト培養法ハ植物ニ須要ナルニ，或ハ旧慣ニテ其疎ナルヲモ怪マザルナキニ非ラズ。単ニ他管人ヨリ之ヲ見レバ大ニ疎漏ヲ遺憾視ス。雖然耕地人口ノ比例，人力ノ過不足アリ，或ハ風土ノ然ラザルヲ得ザル積年ノ実験等アルベケレバ一概ニ論ジ難シ。乍去其改ムベキヲ更メ，人々ノ勉励ヲモナサバ，百人ニシテ百弐拾人ノ功用ヲ成ス如キ，敢テ難キニ非ラザルモノナリ / 七　（筆記洩レタリ）/ 八　秋収ノ際稲架ケ其他ノ取扱向キ，旧慣ノミニ泥ミテハ惜ムベキコトナレバ，民力ノ及ブ的ケ厚ク勧誘シ，注意ナサシメ，柳差米ノ予防ヲナスベシ / 九　本管下ハ稲架ケヲ生樹ニ求メザル多シ。榛ノ木等ハ最モ生育シ易クシテ，功用多キ樹ナレバ往々人民ヲ諭シテ之レヲ田畔ニ差木セシムベシ / 十　本管下ニ嘗ツテ勧農義会アリ。是ラハ大イニ勧業上ノ穆益多ケレバ，各勧業係ハ之レヲ公務視セズ，篤志ヲ以テ其趣旨ヲ拡充スベキハ最モ実益アリトス / 十一　肥料ニ用ユベキ石灰ハ，最モ本管下ノ如キ沼田ニ適用ト考フレバ，宜シク注意シテ其質ヲ発見アラバ，速カニ第二課ヘ報告アルベシ / 十二　馬産ハ本管下一種物産ニシテ，他ニ盛大ニ至ルベキノ原素ヲ有セリ。雖然徒ニ旧慣ノミニ止マリテハ需要ニ当ラザルハ遺憾ナラズヤ。故ニ本年ヨリハ専ラ種類ノ改良ト繁殖トニ注意シテ，種馬貸下ゲノ法ヲ拡充セリ。宜シク此意ヲ体シ，常ニ注意シテ興益ノ意見ヲ陳述スルヲ要ス / 十三　牛産ハ本管下未ダ物産ト称スルニ足ラザルモ，是亦馬産ト倶ニ盛大ナラシムベキ第十二項ノ趣意ニ同ジ / 十四　固有ノ人工物産ヲ精良セシムルハ，大ニ旧慣ニ固執スベカラザルモノアレバ，其需用ノ向キヲ汎ク世上ニ質スタメニ第二課ヘ報告アラバ，之レヲ勧商局其他ヘ諮詢シ，或ハ本課ノ処見ヲ陳シテ，需用ノ場ヲ広カラシメントス / 十五　商法上旧慣ノ不良ナルモノハ，最モ注意シテ永遠ヲ期シ，其行ハレ易キヨリ漸次面目ヲ更ムベシ。尤俄ニ攪動スベカラズ / 十六　凡百ノ物価ヲ識ラザレバ，固滞ノ弊ヲ免カレズ。故ニ将来ハ及ブ的ケ物価ノ告示ヲ注意スベケレバ，各勧業係ハ其意ヲ拡充スルニ勉メンコトヲ / 十七　農具ノ便益ヲ試験シテ人力ヲ助ルコト / 十八　勧業係ハ互ニ通信ノ道ヲ開キ有益ヲ興スベキコト / 十九　桑苗繁殖及養蚕精良方法ノコト / 二十　物産売捌先並ニ其便法ノコト / 二十一　勧業係心得概則ノ趣旨ヲ了会ノコト
第 2 回	一　農産ニ属スル件 / 二　牧畜ニ属スル件 / 三　商況ニ属スル件 / 四　報告ニ属スル件
第 3 回	一　昨年勧業会議ニ於テ決議シタル各種目ニ就キ実験ノ得失及ビ実施ノ景況ヲ陳弁スル事 / 二　農家優劣表ノ事 / 三　植養ニ属スル件 / 四　通信ニ属スル件 / 五　共進会並農事会ノ件
第 4 回	一　前談会事項中試験ニ罹ルモノ，其実効ノ適否 / 二　向来殖産改良又ハ蕃殖等各自ノ目的ヲ陳述スルコト / 三　事業者ノ勤怠其原因ヲ論ズルコト附タリ之レガ奨励及ビ教諭スルノ手続 / 四　農業現術競走会ヲ設ケルコト / 五　虫害ノ現状及ビ駆除法ヲ論ズルコト / 六　動植物ノ適否ニ因テ其増殖ヲ量ルコト / 七　自由試験場其他各郡植物ノ景況ヲ陳述スルコト / 八　肥料製造ノ便否 / 九　管内著名ノ植物撰種培養ヲ論述スルコト / 十　農具ノ得失ヲ論弁スルコト / 十一　養蚕ノコト / 十二　山林ノコト / 十三　水産ノコト / 十四　牛馬ノコト / 十五工商ノコト / 十六　共進会ノ得失ヲ論ズルコト / 十七　気候及ビ農工商ノ景況報告ノ道ヲ開クコト / 十八　本県並各郡種苗交換会開設ノ手続ヲ論ズルコト / 十九　各町村ニ自由一ノ植物試験所ヲ設置スル方法ヲ奨励スルコト / 二十　農務局談会ノ景況ヲ陳述スルコト

回　数	議　題
第５回	一　全会談話事項中植物試験ノ景況如何 / 二　前会交換ノ種苗実際ノ適否如何 / 三　自由試験場及ビ各郡植物ノ景況並収穫ノ多寡如何 / 四　予防法試験ノ景況如何 / 五　駆虫法試験ノ景況如何 / 六　牛馬耕奨励ノ方法如何 / 七　製造ノ農産物改良ノ実験如何 / 八　管内養蚕ノ事業ヲ増殖セシムル方法如何 / 九　従来使用ノ漁具及漁法改良ノ方法如何
第６回	一　全談会事項中植物及選種法試験ノ景況 / 二　自由試験場及ビ各郡植物ノ景況　附前会ニ於テ交換セル種苗適否ノ景況 / 三　各郡種苗交換会及勧業会ノ景況 / 四　稲架ニ用フル為，榛ノ木等ハ生育シ易キヲ以テ，田畔ニ挿木スルヲ奨励上実施ノ景況 / 五　田畑播種，季節ヲ進ムレバ，秋収モ進ミ従ツテ収穫ヲ増ノ益アルヲ以テ奨励上実施ノ景況 / 六　稲ノ下穂黄熟ニ至ラザルヲ度トシ刈取ルトキハ，良米ヲ得ルノ益アルヲ以テ奨励上実施ノ景況 / 七　農具ノ改良品実施ノ景況 / 八　事業者ノ惰風ヲ除去スル方法実施ノ景況 / 九　各町村勧業世話係設置ニ付実況 / 十　農事作業道並ニ耕地改良ノ景況 / 十一　地質及ビ植物ニヨリ肥料ノ適否及ビ製造ノ方法 / 十二　旱魃ニ際シ植物培養及耕作ノ景況　附保水ノ方法 / 十三　馬耕法進否ノ景況 / 十四　漆栽植方奨励ノ景況 / 十五　盧粟栽培及製糖果シテ盛大ニ至ルベキカ / 十六　竹栽培方奨励ノ景況 / 十七　葉藍及煙草改良ノ景況 / 十八　苧麻栽植ヲ奨励スル方法 / 十九　部分木ノ栽植ヲ奨励スル方法 / 二十　杉ノ挿木ヲ奨励スル方法 / 二十一　土砂扞止ノ為殿様木栽植ヲ奨励スル方法 / 二十二　聯合山林郡会ヲ設立スル方法 / 二十三　沿海砂漠地ニ松樹ノ栽植ヲ奨励スル方法 / 二十四　繭蛹殺虫方法 / 二十五　繭ノ撰択及貯蔵ノ方法 / 二十六　生糸製造ノ方法 / 二十七　小枠ヨリ認覧ニ繰返シノ方法 / 二十八　竈炉築造ノ改良ヲ奨励スル方法 / 二十九　農産物盛衰ノ現況及其原由 併セテ衰頽ニ至レル者ハ挽回ノ目的 / 三十　各郡苗木取立ノ方法 / 三十一　腐果改良奨励方法
第７回	一　自由試験場及ビ植物ノ景況ヲ陳述スルコト　附前会ニ於テ交換セル種苗適否ノ景況 / 二　各郡種苗交換会及談話会等ノ景況 / 三　耕作ハ専ラ肥料ニ関係アリ。其製造ノ方法ヲ論ズルコト / 四　森林取立及伐採方得失 / 五　各地土質ニヨリ種類ノ適否 / 六　近年農家虚飾ニ流レ，労働ヲ怠ルガ如し。之ヲ改メシムル方法ヲ論ズルコト / 七　気候ノ変動ニ依リテ植物注意ノ方法ヲ論ズルコト / 八　農産物除害ノ方法ヲ論ズルコト
第８回	一　各郡種苗交換会及談会ノ景況 / 二　自由試験場及各郡植物ノ景況ヲ陳述スルコト，但シ前会ニ於テ交換セル種苗ノ適否 / 三　春来気候ノ変動ニ拠リ農産物成熟上多少ノ関係アリ，因テ左ノ各項ニ就キ実況ヲ陳述スルコト / 四　米質改良法施行ノ景況 / 五　虫害ノ実況及駆除ノ方法 / 六　米俵拵改良ノ実況 / 七　茶，楮，漆栽培ノ景況 / 八　薄荷栽植ノ方法及奨励法 / 九　西洋菓樹栽植ノ景況 / 十　養蚕製糸ノ景況及奨励ノコト / 十一　桑樹栽培並苗木採取ノ景況 / 十二　森林ニ必要ナル苗木養成ノ景況及奨励法 / 十三　農用牛馬改良ノ景況 / 十四　農具改良ノ景況並発明品ノコト / 十五　肥料製造ノ発明
第９回	一　農業上各自実験ヲ陳述スル事
第10回	一　米・麦・大豆栽培法 / 二　農産物豊凶ノ原因 / 三　農業上実験ノ陳述
第11回	一　本年気候ニ対シ諸作物ニ与ヘタル影響 / 二　虫害ノ実況及ビ駆除ノ方法 / 三　肥料製造法及ビ其効能 / 四　乾田法及ビ田地灌漑法ノ利害 / 五　桑苗栽培及ビ販売ノ便ヲ計ル事
第12回	一　各郡種苗交換会及談会ノ景況 / 二　春来気候ノ変動ニ拠リ，農作物成熟上多少ノ関係アリ。因テ左ノ各項ニ就キ実況ヲ陳述スルコト / 三　米俵拵改良ノ実況 / 四　西洋果樹栽植ノ景況 / 五　養蚕製糸ノ景況及奨励方ノコト / 六　森林ニ必要ナル苗木養成ノ景況及奨励法 / 七　農用牛馬改良ノ景況 / 八　農具改良ノ景況並発明品ノコト / 九　肥料製造ノ発明
第13回	一　農家貯蓄ノ方法 / 二　堆肥運搬ノ得失 / 三　農業ノ経験

回　数	議　題
第14回	一　本県ノ特有農産物，将来嘱望スベキ者ニ就き，其耕作ニ関スル事項及収穫ノ多寡，販路ノ実況等，将来ノ予察調査ヲナス事付予察調査ノ順序方法如何 / 二　秣草繁殖及取締ノ事 / 三　稲ノ種類ハ気象ト土性トニ適応ナルモノヲ撰択スルハン勿論ナリ。其適応実験ノ方法如何 / 四　魚肥，油糟，其他厚肥料ヲ，土性，作物等ニ付キ実験シタル結果如何
第15回	一　本年ニ於ケル左ノ作物ノ景況 / 二　稲栽培ニ付キ左ノ各項ノ得失 / 三　苹果ニ就イテ
第16回	一　本年農作ノ景況（収穫歩合共）/ 二　前年本会ニ於テ交換シタル種苗試作ノ成績 / 三　農事上鉄道布設ノ影響ヲ蒙ルベキ事業 / 四　大小麦及瓜哇薯栽培法及奨励法 / 五　畑ノ輪作法 / 六　農関余業ノ消長及将来ニ望アル事業 / 七　農事実験場著シク功ヲ奏シタル事蹟及失敗シタル実績
第17回	一　本年農作（稲，大豆，麦）ノ景況 / 二　前年度交換セシ種苗試作ノ成績 / 三　水害地田畑耕作ノ方法 / 四　改良農具中実用ニ適シ目下多ク実施セラル種類 / 五　農家ノ余業及老幼ノ業務トシテ奨励ヲ加フベキ事業 / 六　各地方農作試験地ノ実況 / 七　泥炭地稲作ノ方法 / 八　稲作ニ用ウル肥料ノ種類並時期
第18回	一　本年農作物概況（稲，大小麦，大小豆，粟漆類，馬鈴薯ニ就キ）/ 二　前年交換セシ種苗試作中参照トナルベキ成績 / 三　明年稲田耕種法中予メ注意スベキ要件 / 四　秣場ヲ改良シテ収利ヲ増進スル方法 / 五　堆積肥料ノ製造貯蔵ノ方法ヲ一般農家ニ普及セシムル方法 / 六　乾田馬耕及稲草乾燥法ヲ普及セシムル方法 / 七　普通農家ニ蚕桑業ヲ盛大ナラシムル方法 / 八　藺草，麻，三椏等，工業作物ヲ奨励スル方法 / 九　ワラ工品類ノ製造及販売ニ関シ，利益ヲ増進セシムル方法 / 十　県内ニ於ケル輪換耕種法中最モ多ク行ハルル種類及得失 / 十一　魚肥ノ効能
第19回	一　本年農作概況（稲，麦，大小豆ニ付）/ 二　前年交換セシ種苗試作中参照トナルベキ成績 / 三　乾田馬耕及稲架乾燥方法ヲ普及セシムル方法 / 四　県内ニ於ケル輪換耕種法中最モ多ク行ハルル種類及其得失 / 五　魚肥ノ効能
第20回	一　本年ニ於ケル水陸稲作，麦作及豆作ノ概況 / 二　昨年交換セシ種苗耕種結果 / 三　本年ノ凶作ニ付明年農家ノ注意スベキ要件
第21回	一　本年ニ於ケル水陸稲作，麦作，豆作ノ概況 / 二　昨年交換セシ種苗耕種ノ結果 / 三　害虫発生セシ田地ニ就キ整地前注意スベキ要件 / 四　冬期農家ノ余業トシテ適当ナル事業　附製莚事業ニ就キ / 五　小作米品評会実施ヲ促ス方法
第22回	一　本県下ニ耕地排水ヲ普及スル農作改良上有益ノコトトス / 二　稲架法ヲ一般普及セシムル方法 / 三　稲田害虫予防トシテ従来経験中最モ効力アリシ方法 / 四　短冊苗代ヲ普及セシムルノ方法
第23回	一　交換種苗ノ成績 / 二　耕地整理ノ普及及速成ヲ図ルノ方法 / 三　害虫駆除予防規程中ニ更ニ加フベキモノナキヤ / 四　新苗代ヲ普及セシムルノ方法 / 五　塩水選種法ヲ普及セシムルノ方法 / 六　本年農作ノ実況及副業発達ノ程度ヲ問フ
第24回	一　交換種苗ノ成績及各郡ノ農況 / 二　系統的品評会ヲ開設スルノ可否，若シ可トスレバソノ方法如何 / 三　本県ニ於テ奨励スベキ稲種ハ，如何ナル形質ヲ標準トスベキヤ / 四　農事調査ヲ促成スルノ方法 / 五　ワラ工品共同販売組合ノ設立ヲ促進スルノ方法 / 六　第五回内国勧業博覧会出品農産物及蚕繭ノ撰抜品評会開設ノ方法如何
第25回	一　農家ノ副業トシテワラ工品ヲ奨励スルノ方法如何 / 二　種苗交換ノ成績 / 三　各郡市ノ農況及本年不作救済策如何 / 四　各郡乾田実施後水量ニ及ボセル影響如何 / 五　農会ヲ活動セシムル方法如何 / 六　押犂，抱犂ノ利害 / 七　藺草業奨励法

回　数	議　題
第26回	一　交換種苗ノ成績並ニ本年ノ作況ニ就テ / 二　第五回奥羽六県連合物産共進会農産物出品種類ノ統一ニツイテ / 三　農商務省諭達（本年十月十六日）各項目普及ノ程度オヨビ之ガ必成ヲ期スルノ方法ニツイテ / 四　各郡地方慣習ニツイテ
第27回	一　交換種苗ノ成績並ニ本年ノ作況ヲ問フ / 二　輸出米検査ヲ実施スルノ可否，若シ可トスレバ其方法如何 / 三　戦時産業奨励ノ実況並ニ実施事項中成績最モ良好ナルモノ如何
第28回	一　交換種苗ノ成績並ニ本年ノ作況ヲ問フ / 二　乾田実施規則及水稲乾燥規則実施ノ状況ヲ問フ / 三　輸出米検査規則実施ニ関シ地主ノ之ニ対スル前途ノ方針ヲ問フ / 四　共同苗代設置ノ実況ヲ問フ
第29回	資料ナシ
第30回	一　交換種苗ノ成績及本年ノ作況如何 / 二　県当局者ニ於ケル農業ノ改善方策ニ対シ，速カニ之ガ実行ヲ期セシムルノ方法如何 / 三　本会ノ経費中事業費ノ大部分ハ挙ゲテ種苗交換会ノ支出ナリ / 四　産業組合設立，普及ノ方法如何 / 五　町村農会活動ノ方法如何 / 六　勧業上ニ対スル希望ヲ問フ
第31回	一　詔書ノ聖書ヲ奉体シ，国民勤勉，努力，一致団結，殖産興業ノ発達ニ従事シ，事績ヲ挙ゲ，聖旨ニ奉答スル方法如何 / 二　交換シタル種苗ノ成績及本年ノ作況ヲ問フ / 三　稲ノ良種類ヲ最モ迅速ニ普及セシムル方法 / 四　小作米ノ改良セルモノ及農村ノ繁栄ヲ期スルコトニ対シ，地主ニ於テ実行シツツアル事項及其状況如何 / 五　農家経済収支ノ実況如何，及農家経済ノ一助トシテ，糅飯ヲ用ウルノ習慣ヲ形成スルノ便法如何 / 六　産業組合設立ノ前程トシテ，農具，肥料，其他ノ共同購入若クハ貯金方法等ニ就キ，申合，規約ヲ為サシメ，実行セシムルノ難易，普及其方法如何 / 七　抜穂撰種ヲ普及セシムル方法 / 八　稲種子，塩水撰ノ普及程度ト其効果ニ対スル実験談 / 九　稲ノ立毛品評会ヲ部落，町村，郡，県ト系統的ニ行フ能ハザルカ。若シ，行ヒ得ルトセバ其方法如何 / 十　立毛審査方ニ就テノ実験談 / 十一　既設各種組合ノ実況ト活動ニ対スル希望 / 十二　信用組合員ノ貯金ヲ可成簡便ニ行ハシムル方法 / 十三　稲ノ鳰積ヲ改良スル方法如何 / 十四　輸出ワラ工品ノ粗製濫造ヲ匡正スル方法如何 / 十五　本県農家ノ休日ヲ改良スル方法如何 / 十六　稲，大豆作立毛品ヲ全県内通シ，各町村ニ各三点以上ノ出品セシムルノ方法ヲ定ムル可否。但シ大豆作ハ１反歩以上ニシテ，麦間作付ヲシタルモノ
第32回	一　交換種苗ノ成績及本年ノ作況ヲ問フ / 二　稲ノ種類改良ニ関スル意見ヲ問フ / 三　公平ナル小作米ノ定メ方如何 / 四　小作人保護奨励ノ方法如何 / 五　適切ナル小作人組合ノ組織方法如何 / 六　部落農会設立ニ関スル意見ヲ問フ / 七　農村経済ノ現況ヲ問フ / 八　農村暦年中行事ニ関スル意見ヲ問フ / 九　農家ノ休日ヲ如何ニ改正スベキヤヲ問フ / 十　善良ナル農村ノ娯楽ハ何乎ヲ問フ
第33回	一　交換種苗ノ成績及本年ノ作況ヲ問フ / 二　町村青年農会活動ノ現況，指導方法ニ関スル意見ヲ問フ / 三　畑地ノ利用ニ関スル意見ヲ問フ / 四　家禽改良普及ニ関スル意見ヲ問フ / 五　園芸改良普及ニ関スル意見ヲ問フ / 六　改良農具ノ普及方法ニ関スル意見ヲ問フ / 七　如何ニセバ実業ト教育ト接近セシムルコトヲ得ベキヤ / 八　種苗交換会出品水稲籾ニ代フルニ抜穂トナスノ可否
第34回	一　交換種苗ノ成績及本年ノ作況ヲ問フ / 二　種苗交換会水稲出品ニ関スル意見ヲ問フ / 三　農村青年ノ労働忌避矯正ニ関スル意見ヲ問フ / 四　農業労働増進ニ関スル意見ヲ問フ / 五　種苗交換会沿革史編纂可否 / 六　種苗交換会出品中ニ観賞植物ノ一科ヲ加フルノ可否 / 七　家禽品評会ヲ種苗交換会中ニ加フルノ可否 / 八　家禽品評会授賞鶏ヲ県農会公認家禽トナスノ可否 / 九　女子農業教育ヲ普及セシムルノ方法如何

（出典）秋田県農業協同組合中央会編（1970），1018-1027頁より作成

表５　大正期における談話会の議題

回　数	議　題
第35回	一　交換種苗の成績及本年の作況を問う / 二　苗代跡地利用に関する意見を問う / 三　畑の二毛作に関する意見を問う / 四　女子農業教育を普及せしむるの方法如何 / 五　土壌調査は農事改良上最も必要なりと認む。県農会は如何なる方法に依り之を奨励実施せしめんとするや
第36回	一　交換種苗の成績を問う / 二　稲栽培法中特に注意すべき事項及び本年の作況を問う / 三　女子農業教育を普及せしむる方法如何 / 四　土壌調査は農事改良上最も必要なりと認む。県農会は如何なる方法により之を奨励実施せんとするや
第37回	一　交換種苗の成績及本年の作況を問う / 二　田畑作の生産増加に関する意見を問う / 三　農家経済状態の改善に関する意見を問う / 四　果樹栽培業の進歩発達を計る為め県下を通した特殊機関を設くるの要なきか
第38回	一　交換種苗の成績及本年の作況を問う / 二　農家経済状態の改善に関する意見を問う / 三　雀の駆除法及其効果に関する意見を問う / 四　模範田畑の現況及之れに関する意見を問う / 五　果樹栽培業の進歩発達を計る為め県下を通した特殊機関を設くるの要なきか
第39回	一　交換種苗の成績及本年の作況を問ふ / 二　改良品種の普及に関する意見を問ふ / 三　農業経営の改善に関する意見を問ふ
第40回	一　交換種苗の成績及本年の作況を問ふ / 二　家族の労作増進に関する意見を問ふ / 三　種苗交換会改善に関する意見を問ふ
第41回	一　交換種苗の成績及本年の作況を問う / 二　開墾奨励に関する意見を問う / 三　農業労働者欠乏に処する方策に付意見を問う / 四　耕地接続地に樹木を植栽するは境界線を距る何程を可とするや，又之を取締るの要なきや / 五　国県道両側の堤防に喬木（針葉樹）を植栽するの利害得失如何 / 六　陽暦励行に関する意見を問う / 七　農家休み日数を県内一定するの要なきや
第42回	一　交換種苗の成績及本年の作況に関する実験談 / 二　改良品種と収穫増加に関する実験談 / 三　地主，小作人間の美風維持に関する意見を問う / 四　農村現時の経済状態に関する意見を問う / 五　共同耕作実施上適当なる方法如何 / 六　耕地接続地に樹木を植栽するは，境界線を距る何程を可とするや。又之を取締の要なきや / 七　国県道両側の堤防に喬木（針葉樹）を植栽するの利害得失如何 / 八　陽暦励行に関する意見を問う / 九　農家休み日数を県内一定するの要なきや
第43回	一　交換種苗の成績及本年の作況に関する実験談 / 二　水稲立毛品評会の利用増進に関する意見を問う
第44回	一　本年の作況並に耕種上の実験談 / 二　排水に関する実験談 / 三　共同耕作実施上適当なる方策如何
第45回	一　本年ノ作況並耕種上ニ関スル実験談 / 二　農家婦人ノ農業知識ヲ如何ナル方法ニ依テ涵養セシムベキヤ / 三　小作料ハ如何ナル割合ヲ以テ相当トナスベキヤ
第46回	一　本年の作況並びに耕種上に関する実験談 / 二　農業経営上共同作業の種類範囲並に之が普及の方法如何 / 三　農産物販売上適当なる方法如何 / 四　町村農会採種田立毛品評会開催の可否如何
第47回	一　本年ノ作況並ニ耕種上ニ関スル実験談 / 二　共同作業実施ノ経験ニ徴シテ之ガ計画指導上留意スベキ事如何 / 三　農家ノ余剰労力ヲ利用スベキ事業ノ種類方法ニ関スル実験談
第48回	一　本年ノ作況並耕種上ニ関スル実験談 / 二　旱魃時ニ於ケル耕作上ノ実験談 / 三　各地ニ於テ有利ト認メラルル副業ノ実験談 / 四　農用動力機ノ利用ニ関スル実験談

（出典）秋田県農業協同組合中央会編（1970），1027-1028頁より作成